

和のリゾート 新たな船出

輪島市塚田町の「ホテルこうしゅうえん」を三月末から経営しているホテルマネージメントインターナショナル（HMI、東京都中央区）が十六日、こうしゅうえんで、事業の承継を記念する披露宴を開催し、県内の経済や観光関係者ら二百五十人が創業五十年のホテルの再出発を祝った。（関俊彦）

輪島「ホテルこうしゅうえん」



披露宴を前に、ホテルこうしゅうえんの再出発を喜び合う（左から）比良竜虎社長、スジャン・チノイ大使、梶文秋市長＝輪島市塚田町で

経営のHMI 事業承継を記念し披露宴

HMIの比良竜虎社長（左）は能登の里山里海の景観に触れ、「美しい海岸線が広がる輪島ならではの、和の海浜リゾート施設にしたい」とあいさつ。梶文秋市長は「国際的な感覚が豊富な企業であり、洋の世界への対応もできる。奥能登の観光のけん引役になってほしい」と期待を寄せた。

インドから国籍取得した比良社長と親交の深いスジャン・チノイ駐日インド大使も出席。チノイ大使は、輪島とインドが誇る漆文化に触れながら「永遠に存続する漆器のように、インドと輪島、そして能登の関係が永遠に続くことを願っている」と述べた。

HMIは、全国でホテルやスポーツ施設など六十施設を運営し、県内にはホテルウェルネス能登路（宝達志水町）など四施設がある。後継者不在から前事業者の輪島観光開発が承継先に決め、「ホテル高州園」から改称して、三月末から経営している。

比良社長に聞く今後の戦略

比良社長は、披露宴を前に輪島市役所を訪問。梶市長や報道陣を前に、「和のリゾート」実現に向けた今後の戦略を語った。

「事業承継を決めた理由は、日本屈指の景観を誇る北陸地域は、まだまだ成長の余地がある市場。輪島は景観に加え、世界に誇る輪島塗がある。能登空港にチャーター便を呼び込むなどすれば、今まで以上

のインバウンド（訪日外国人旅行者）にも期待できる。具体的な改装案は、客室（百二十二部屋）の一部を、畳の上にベッドを置く和モダンな洋室に改装する。日本海のオーシャンビューを楽しんでもらうため、一階にウッドデッキを整備し、海岸線には夜間にライトアップできる散策コースを設置したい。改装には約五億円の予算

を盛り込んでいるが、ホテルそばの海岸には、現在多くの消波ブロックが置かれている。自治体への協力も求めながら、来年三月までに整備を進めたい。

「輪島の観光におけるさらなる可能性とは、世界的に人気が高まっているマリンスポーツを楽しめる場を設けることで、さらなる増収増益が見込める。インドをはじめ各国と戦略的パートナーシップを結ぶことで、将来的に海外からの観光客を大幅に増やすことも可能だ。

使が地元の高校生と交流したいと要望して実現した。（関俊彦）

「異文化積極的に触れて」

インド大使 航空石川の生徒と交流

初めて輪島市を訪れたスジャン・チノイ駐日インド大使は披露宴の後、日本航空高校石川の生徒との意見交換会を開き、さまざまな国の文化に触れる大切さを呼び掛けた。

タイや中国の留学生七人を含む生徒十三人が参加。チノイ大使は「パイロットも整備士も、航空機に自分の国の文化を乗せて運ぶという意味では、外交官と変わらない」と説明。「サンスクリット語で『世界は一

つの家族』ということわざがある。いろんな国の人と触れ合える今を大事にしてほしい」と英語や中国語に日本語を交えて、優しく語り掛けた。



スジャン・チノイ大使（中央左）と記念撮影する日本航空石川の生徒＝輪島市塚田町で

旧高州園 5億円かけ改装

東京の運営会社「和」で訪日客誘致

全国でホテルなどを運営するホテルマネージメントインターナショナル(HMI、東京・中央)は16日、3月末に事業を引き継いだ「ホテルこうしゅうえん」(旧ホテル高州園)石川県輪島市の運営計画を発表した。



改装後の客室イメージ

来春にかけて客室やロビーの改装、海辺の散策路の整備を進める。訪日外国人の宿泊客を増やし、奥能登地域の観光活性化につなげる。

HMIの比良竜虎社長が同日、輪島市役所で梶文秋市長に計画を説明し

た。「和のリゾート」をコンセプトとし、畳にベッドを置いた和モダンタイプの客室を導入。日本海に面した立地を生かして散策や休憩用のデッキを設け、ロビーやキャラ

リも一新する。改装に伴う投資額は5億円を想定し、来年3月までに工事を終える計画だ。旧ホテル高州園は1968年開業。650人を収容できる奥能登最大

級の観光ホテルで全国各地から団体客などを集める。ただ施設の老朽化が進み、経営者の高齢化と後継者不在を受け、HMIが3月に事業を承継した。

輪島市には羽田便が1日2往復する能登空港があり、チャーター便を誘致して訪日客を呼び込む戦略を描く。

HMIは片山津温泉の「ホテル北陸古賀乃井」など石川県で4施設、全国60施設のホテルなどを手掛ける。インド出身で日本に帰化した経歴を持つ比良社長は「将来的にインドからの訪日客を増やし輪島の観光国際

印大使「1人1人が外交官」

航空高石川生徒と意見交換

スジャン・R・チノイ駐日インド大使は16日、輪島市塚田町のホテルこうしゅうえん(旧高州園)で、航空高石川の2、3年生13人と意見を交わした。チノイ大使は「民間航空事業は外



航空高石川の生徒と交流するチノイ大使(中央)

航空業界を目指す高校生にエールを送った。

【5面に関連記事】

生徒会役員と留学生が参加し、川原颯(生徒会長)3年)が、国際色豊かな校風や寮生活について説明した。

チノイ大使は記者会見も行った。輪島市について「観光で潜在的な力がある。観光は経済効果のみならず、海外との人的交流が深まる」と発展に期待を込めた。チノイ大使は、ホテルこうしゅうえんを運営する会社の社長がインド出身である縁で、同ホテルの事業承継記念披露宴に出席するため輪島を訪れた。

和のリゾートに改装

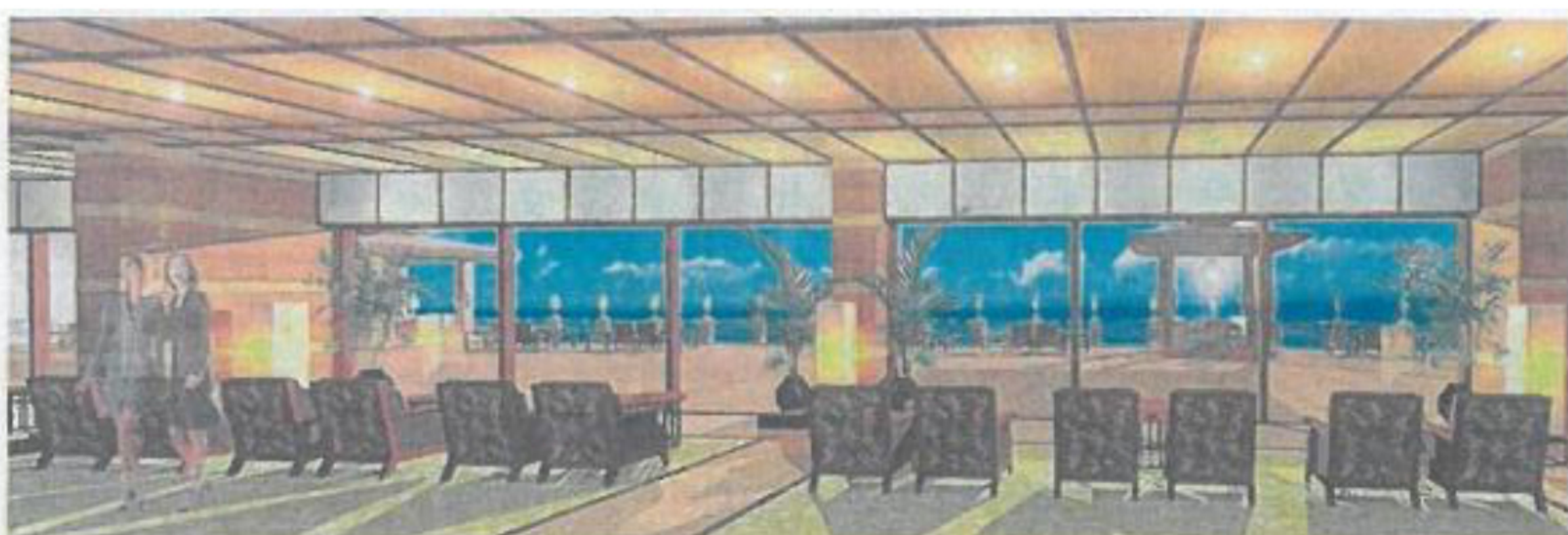
ホテルこうしゅうえん HMI、5億円投じ

輪島市塚田町のホテルこうしゅうえん(旧ホテル高州園)の事業を承継したホテルマネージメントインターナショナル(HMI、東京)は16日、同ホテルを来年3月までに改装する計画を発表した。海浜の景観を生かした「和のリゾートホテル」として、約5億円かけて客室やレストランなどを手直りする。

【27面に関連記事】

HMIの比良竜虎社長が輪島市役所で会見し、明らかにした。和風の客室には外国人や高齢者に対応した低めのベッドを導入し、2階ギャラリースペースは日本海を展望できるダイナミックなレストランとする。海側には1階ロビーから出られる木製デッキや散策路を整備する。

インド出身の比良社長は能登空港を生かした海外宿泊客増にも意欲を示した。ホテルこうしゅうえんの年間宿泊者数は約7万人で、インバウンド強化で2020年には20万人を目指す。16日、比良社長は梶文秋市長と懇談したほか、事業承



改装後のホテル内のイメージ (HMI提供)

継記念披露宴に出席した。HMIは全国でホテル54カ所とフィットネス6カ所を展開する。ホテルこうしゅうえんは石川県内で4カ所目。高州園を運営していた輪島観光開発(輪島市)は後継者が見つからず、HMIが3月、約16億円で土地と建物を取得した。